

生徒一人ひとりの学習習慣の確立と学力の向上

～ 勉強を学びに近づける ～

輪島市立上野台中学校

1 事例の概要

(1) 研究主題設定の理由

生徒の学習・生活面の実態を次の4つの観点から見直した結果、本校生徒の喫緊の課題は学力の向上であると考え、研究主題を「生徒一人ひとりの学習習慣の確立と学力の向上」とした。

- ① 家庭での学習時間の状況・宿題の提出状況調査結果
- ② 定期テスト・県基礎学力テスト・NRT等から見た成績の分布状況
- ③ 生徒の食生活アンケート結果
- ④ 「上野台教育プラン」保護者アンケート結果

(2) 研究仮説

- ・学習習慣を確立し、「わかる・できる」授業実践を積み重ねることで学力が身につくであろう。
- ・人間関係づくりを深め、「かかわり合う力」を高めれば学力の向上につながるであろう。

A-1 上野台教育プラン

2 実践内容

(1) 授業力の向上と学習習慣の確立

授業を「教師主導型の授業」から「生徒がかかわり合う授業」に転換し、授業力の向上を図る。具体的な方策として、校内授業研究を核とした校内研修を推進する。3つの視点（課題をつかむ活動・課題にせまる活動・振り返る活動）を持って、教科の枠を超えた授業研究を実施する。また、定期的に学力の向上についての検証を行い、実践内容の評価修正を図る。宿題の工夫と中・高連携による毎日の学習時間調査を通じ、学習習慣の確立を図る。

(2) 学習を支える「かかわり合う力」の向上

「かかわり合い」を通して考えを深める授業をつくるためには、自分の周りにいる人とのコミュニケーションが不可欠である。本校では、特別活動と総合的な学習の時間の中で、特に「かかわり合う力」（対話力）の向上に重点を置いた活動の実践に努めている。

(3) 学習を支える学習環境づくり

学習環境は学習成果に大きな影響を与える。本校では日々の学習や活動の中に生徒指導の機能（自己決定、自己存在感、人間的なふれあい）を生かし、ハード・ソフトの両面から学習環境を整え、学力の向上につなげていきたいと考えている。

B-1 研究構想図

B-2 学力向上と学習習慣確立のための3ステップ

3 指導の実際

(1) 授業力の向上〔「わかる・できる」授業の実践〕

① 授業改善の視点の明確化

視点1 課題をつかむ活動の工夫

本校では、課題をつかむ活動の工夫により、「教師が課題を与える段階」から「生徒が課題を見つける段階」へ近づけていくことをめざしている。

視点2 課題解決にせまる活動の工夫

できるだけ多くの「課題にせまる活動」を考え、その中から最も「かかわり合い」の生まれ

やすい活動を取り入れていくことを共通理解している。学習形態を工夫し、生徒の発言を上手く拾い、つないだり広げたり深めたりするなどの適切な支援の工夫に取り組んでいる。

また、課題を解決できていない生徒には、必ず具体的な支援や指導を行うようにしている。

視点3 振り返る活動の工夫

課題追求の過程や結果を振り返らせ、生徒一人一人の学習の深まりを確認し合う場を設けている。振り返り活動の評価方法としては、自己評価（振り返りカード）や相互評価などを用いている。

② ステップごとの評価と指導

小単元やユニットなどのできるだけ小さな単位で評価を行い、目標達成度に応じて具体的な指導を行うようにし、指導と評価の一体化に努めている。評価の方法としては、行動観察、振り返りカード、教師自作の小テストや市販の単元別テストなどを利用している。

③ 学習カルテの活用

定期考査の後で、必ず学習カルテを利用してテスト勉強への取り組み状況を振り返らせている。自分の学習の弱点を把握し、克服するための学習計画を立てる時に活用するよう指導している。教師からのコメントも必ず書いて生徒を励ましている。

C-1 指導案

C-2 振り返りカード

C-3 学習カルテ

(2) 学習時間の確立をめざす宿題の工夫

① 学習習慣をつけるための宿題

英語マラソンノート（単語練習）を全学年に、数学計算ノートは1・2年生に宿題として課し、提出率100%を目指して学習の習慣化を図っている。

② 学力を伸ばすための宿題

県基礎学力調査の分析結果を基にして、学力をつける宿題を準備し、生徒に意欲的に取り組ませるようにしている。提出率より学習時間の増加と質の向上を目指している。

(3) 学習時間の調査

学習習慣の確立を図るためには、家庭での学習時間を確保することが大切である。そのため、中高連携を図っていく中で、高校から学習時間調査の成果や調査方法を学び、毎日の学習時間調査を6月より実施している。月末に集計し、学級活動の中で学習時間を増やすための話し合いや指導を行っている。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・ 授業づくりに3つの視点を設けたことで、教科の枠を超えた授業研究を推進することができた。
- ・ 学習習慣をつけるための宿題（計算ノート、英語マラソンノート）の提出率80%以上はクリアできなかったが、力をつける宿題に取り組む意欲の高まりが3年生を中心に見られた。
- ・ 課題をつかむ活動・課題にせまる活動・振り返る活動の中で、少しずつ生徒同士の意見交流の場面が増えてきた。

(2) 課題

- ・ 3つの視点についてさらに焦点化を図り、指導構想図（仮称）を作成し、「授業を変えきる」まで、具体的な授業改善をする必要がある。
- ・ 学習習慣をつける宿題では提出率を100%に近づける工夫が必要であり、力をつける宿題ではその成果を検証する方法の確立が課題である。
- ・ 「かかわり合い」のある学習活動を展開するために、対話力の向上の具体策を立て計画的・継続的な実践を推進する必要がある。